

プロジェクト課題 No. 2

ねぎの次世代担い手育成による産地の強化



活動期間 : 令和6年度～令和8年度

対象者 : JA 新みやぎあさひなねぎ部会 若手生産者5人（同部会員72人）

チーム員 : ◎小野寺恭子、上山啓一、菅原克哉、蘇武真、丸田凌太郎

1. 課題の背景・ねらい

【背景・ねらい】

- JA 新みやぎあさひなねぎ部会（72人、13ha）では、高齢化により今後の産地維持が課題。
➡ 担い手となる若手生産者の育成が急務
- 対象者 5 人は、20～40代の若手で規模拡大の意向もあることから、重点的に支援することで、産地維持に向けた中核的存在となることを期待。

【令和7年度 定性的目標】

- 若手生産者の栽培技術が向上し、ねぎの収量及び品質が向上する。
- 若手生産者間でネットワーク形成への動きが強まる。
- 産地の維持・発展に向けて部会全体で共通認識が生まれる。

【定量的数値目標】

部会平均単収の到達者数
(2.1t/10a)

R5現状
1人



R6目標
1人



R7目標
3人



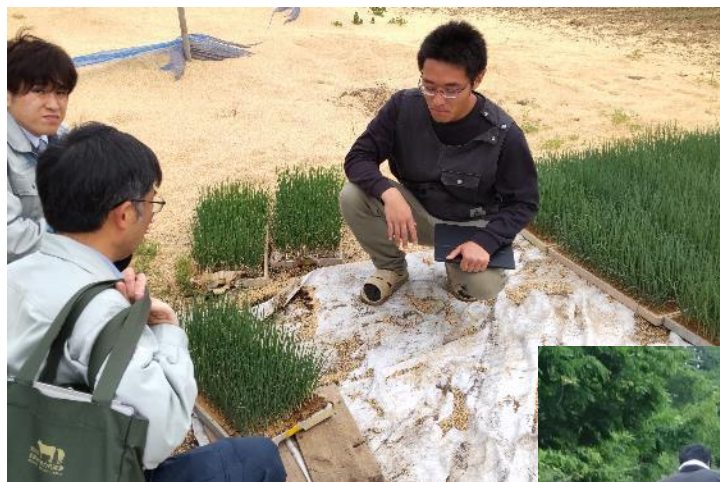
R8目標
5人

2.活動内容

(1) 若手生産者の栽培技術向上支援

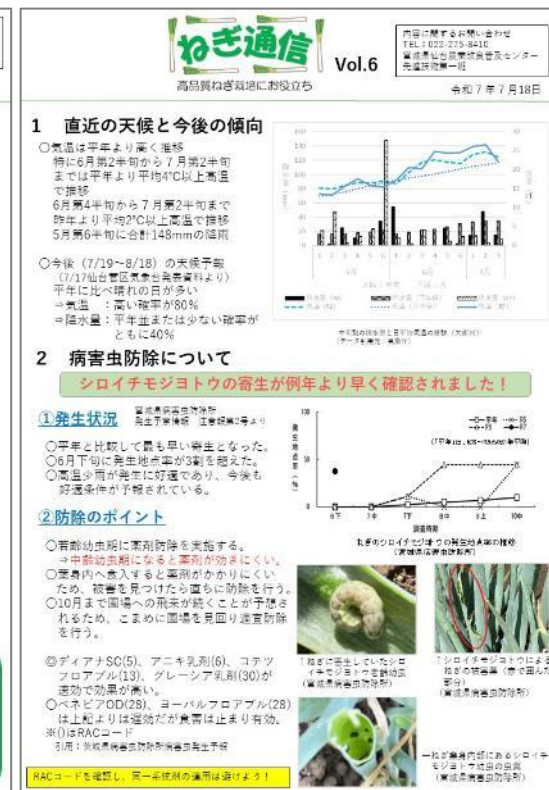
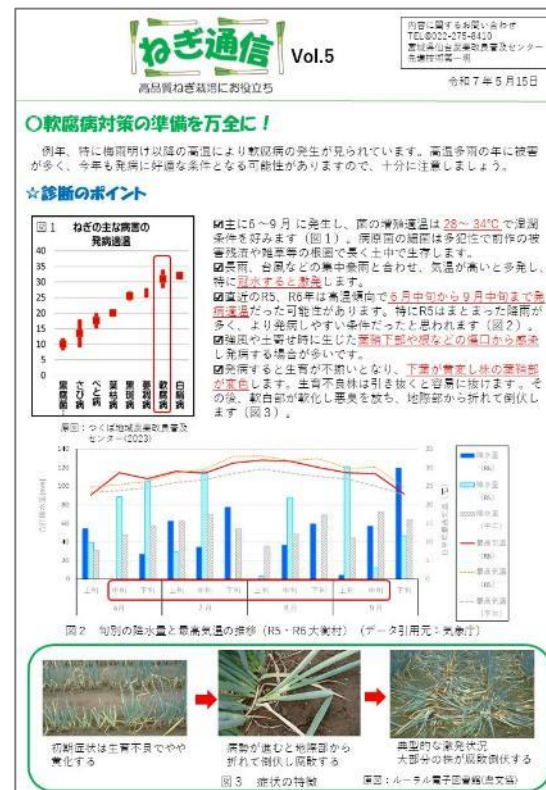
定期的な巡回

作業の進捗確認・助言



技術情報「ねぎ通信」の発行

(5/15、7/18)



2.活動内容

(1) 若手生産者の栽培技術向上支援

部会行事と連携した支援

6/19 栽培講習会



7/15 現地検討会



先進地視察研修

8/19 山形県天童市



2.活動内容

(2) 若手生産者間のネットワーク形成支援

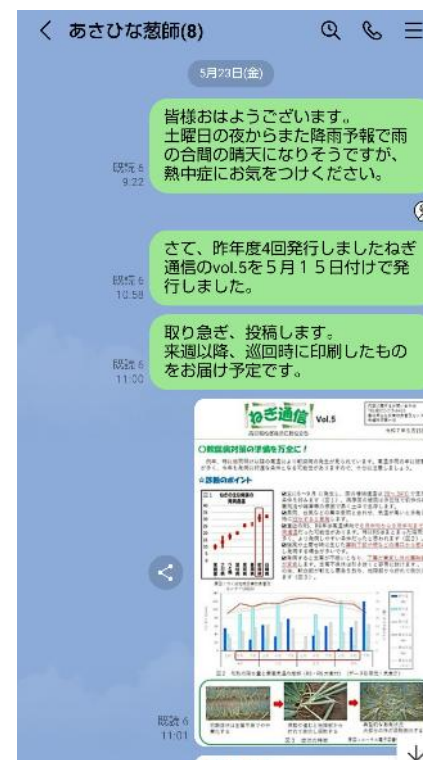
情報交換会の開催

6/19 第1回

7/15 第2回



SNSを活用したネットワーク形成支援

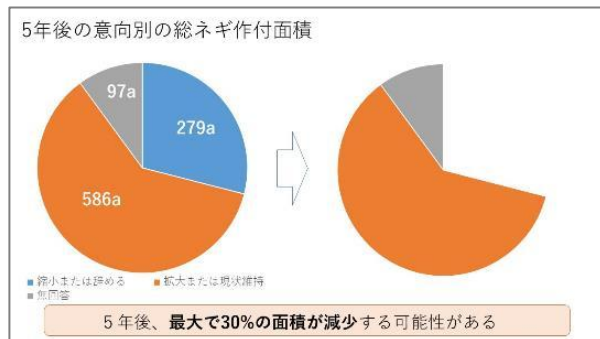
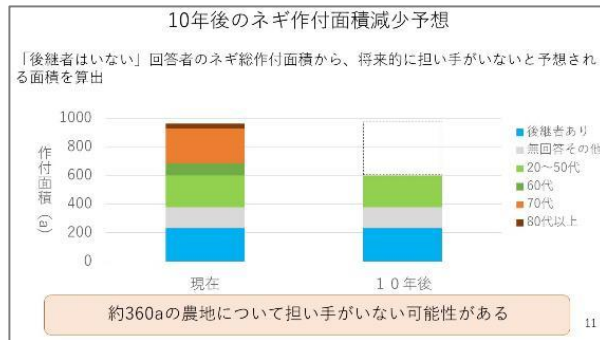


2.活動内容

(3) 産地の維持に向けた協議支援

アンケート結果の検討

「ねぎ生産振興（経営）に関するアンケート調査
回収率65%（回収47戸/対象72戸）」



先進地視察

8/5 矢本葱生産組合



経営改善のための技術検討

春ねぎ（初夏どり）実証試験



3.これまでの活動成果

(1) 若手生産者の栽培技術向上支援

- 作型の分散や新品種の導入等、個々の課題解決に向けた取り組みが見られる
- 現地検討会の圃場を対象者圃場としたことで若手の取り組みを部会員が知るきっかけとなった
- 大規模法人経営体への視察が取り組みへの刺激となっている
- 高温少雨の厳しい条件下だが、7月からは収穫が始まっており、今後の収量が期待される

(2) 若手生産者間のネットワーク形成支援

- 病虫害防除や品種の情報など、情報交換会での発言が活発化している
- SNSが、相互連携の意識醸成とネットワーク形成の一助になっている

(3) 産地の維持に向けた協議支援

- 役員会でアンケート調査結果について説明を行い、再度産地の維持に向けた検討を行った
- 矢本葱生産組合への先進地視察では後継者育成の事例についても参考にできた
- 春ねぎ（初夏どり）実証試験により収穫期分散につながる結果が得られた

4. 今後の対応

(1) 若手生産者の栽培技術向上支援

- ・ 定期的な巡回や部会活動との連携、「ねぎ通信」発行等による支援
- ・ 出荷量等、今年度実績の取りまとめ、次年度に向けた振り返り

(2) 若手生産者間のネットワーク形成支援

- ・ 情報交換会、LINEグループを活用した対象者相互のネットワークづくりの後押し

(3) 産地の維持に向けた協議支援

- ・ J Aとの連携による産地維持や活性化に向けた意識の醸成
- ・ 作業競合も踏まえた作型の検証や品種比較等の検討